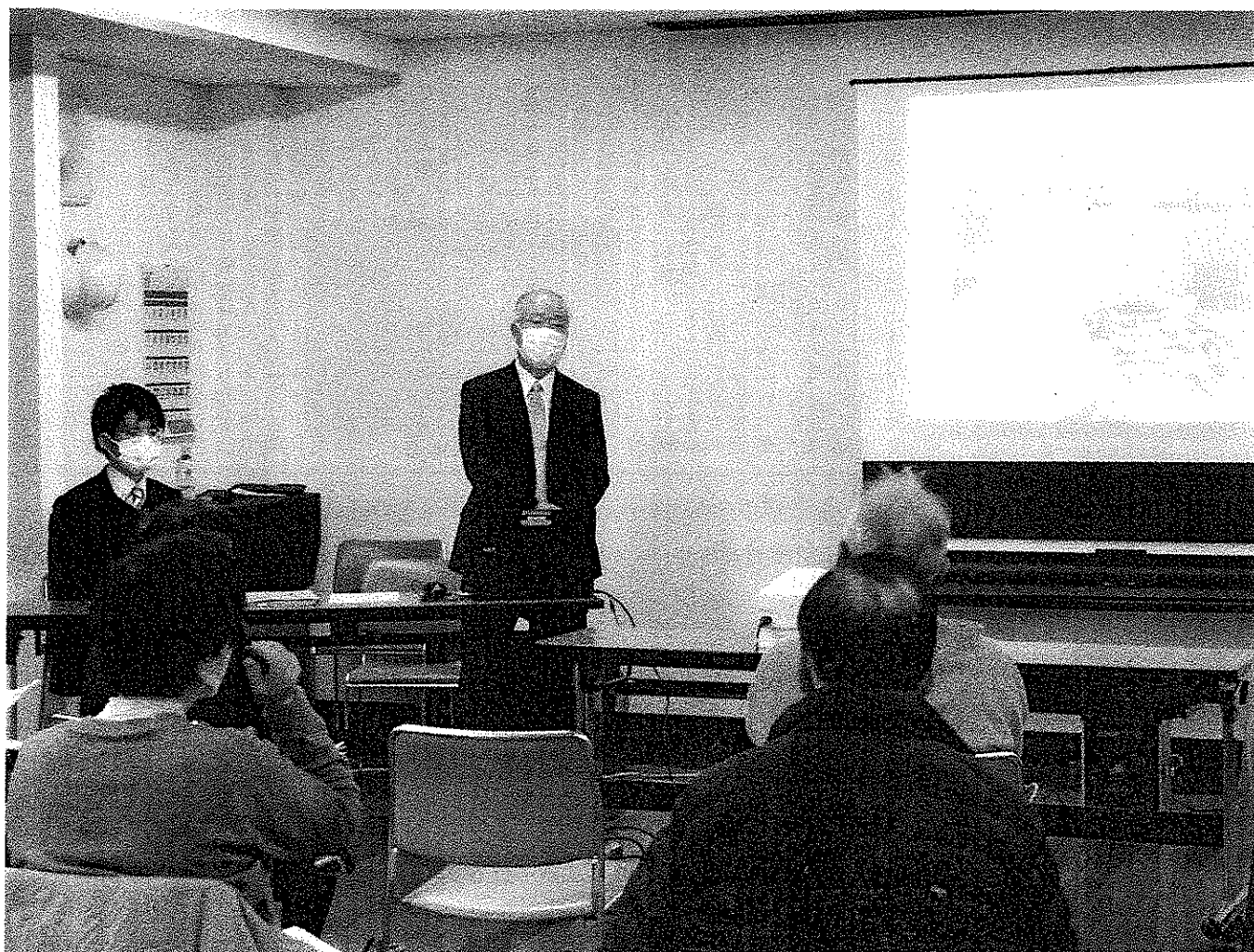


北足立北部

# 人権教育

編集・発行 北足立北部人権教育推進協議会  
伊奈町教育委員会生涯学習課（電話）048-721-2111

No.39



上尾市立人権教育集会所人権問題指導者研修会

## 鴻巣市「人権メッセージ」優秀作品

- ・ぼく聞くよ こころのとびら しめないで  
鴻巣市立箕田小学校 3年 山本 蒼典
- ・やさしい心の種まけば でっかい笑顔の 花が咲く  
鴻巣市立田間宮小学校 6年 金田 芽依
- ・「大丈夫」 その言葉の裏で 助けを求める人がいる  
鴻巣市立吹上北中学校 3年 吉沼 眺大



## 桶川市憲法・人権市民のつどい

桶川市教育委員会

桶川市では、市民一人一人が、かけがえない人間として尊重され、幸せに生活できる社会を築くため、憲法を暮らしのなかに生かし、基本的人権を守ることを目的とし、毎年十二月にさいたま文学館文学ホールにおいて「憲法・人権市民のつどい」を開催している。

例年、市内の代表児童生徒による人権作文の朗読と、講師による人権問題を主題とした講演を実施している。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じながら、人権作文の朗読と拉致問題をとり上げた映画「めぐみへの誓い」の上映を実施した。

人権作文の朗読では、代表作品として、相手の気持ちを考えることの大切さを伝える「べんりな道具とのつきあい方」アルツハイマー型認知症になつてしまった祖母への思いについて書かれた「遠ざかる記憶」の二点が選出された。代表児童生徒は、自分自身としっかりと向き合い、感じたことを素直に、そして堂々と朗読した。



## 上尾市立人権教育集会所人権問題指導者研修会

上尾市教育委員会

上尾市には、人権教育の拠点施設として位置付けられた、原市・畔吉集会所がある。

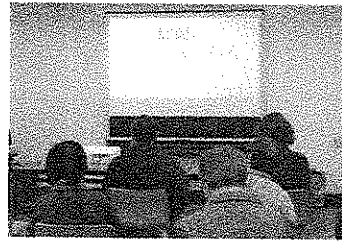
両集会所では、毎年人権週間の時期に合わせて「人権問題指導者研修会」を実施している。

この研修会は、様々な人権問題への正しい理解と認識を深め、人権意識の高揚を図るとともに、人権問題を自身の問題として捉え「偏見をもたない、差別をしない、差別をさせない」実践力を身に付け、差別のない地域の核となる人材育成を目的とし、例年、集会所の利用者全員を対象に実施している。今年度については新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、集会所利用者サークルの代表、人権教育推進協議会委員、人権教育集会所運営委員会委員を対象に実施した。

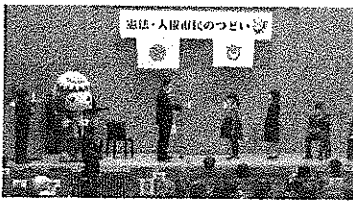
研修では、講師による講演を行い、今年度については「同和問題をはじめとした様々な人権問題」「拉致問題」をテーマとし、前者については人権教育推進協議会会長の曾我部延孝先生、後者については、特定失踪者家族会副会長の藤田隆

司先生に講師をお願いした。参加者からは昭和史の中から人権問題を取り出してお話しいただき、とても新鮮でした。」「拉致に関する知識がなかったため、おどろく事ばかりでした。一人一人の方ご家族を思うと苦痛の日々だろうと思います。私なりに様々調べて広めたいと思います。」「などの声が寄せられ、参加者自身が人権について深く考える機会となったことがうかがえた。

今後、より多くの人が人権意識を高め、差別のない社会をつくる社会ができるよう、こうした研修を実施していきたい。



「拉致問題」講演の様子



「憲法・人権市民のつどい」の様子

映画「めぐみへの誓い」は、いまだに決していない北朝鮮による拉致問題について、十三歳の時に北朝鮮に拉致された横田めぐみさんを中心に、拉致被害者とその家族の苦悩と闘いを描いたドラマである。

未だに解決を見ない拉致問題。拉致被害者の家族の高齢化も進み、拉致問題解決には、もう一刻の猶予も許されない深刻な状況である。今までの歩みを止めることなく、拉致問題解決に向け、北朝鮮当局や国際社会に粘り強くアピールし続けなければならない。

今後も、豊かな人権感覚を醸成していくため、「憲法・人権市民のつどい」を実施していきたい。

## 子ども自然体験教室

鴻巣市教育委員会

鴻巣市では、集会所講座事業の一つとして、「子ども自然体験教室」を開催している。

学校や学年の違いを越えた児童の交流を図り、体験学習や見学、遊びを通して豊かな感性を育て、参加児童の連帯感を深め、仲間づくりと社会性を育むことを目的としている。そして、この教室での活動を通して、人権感覚を育て、友だちを大切にする心を養うとともに、人格や命を大切にすることを育てていく。

七月から一月まで毎月土曜日又は日曜日に、鴻巣集会所を中心に活動をしている。

内容としては、まず、開講式で、自己紹介やアイスブレイキング、人権DVDの視聴を行った。また、埼玉県自然学習センターでの自然観察、鴻巣の遺跡や土器などについての学習、馬室遺跡金銭探索を行った。さらに、国の重要無形民俗文化財として指



## 生涯学習人権講座研修会

北本市教育委員会

北本市では、市民一人一人が人権問題を正しく認識し、その解決に向け努力していくことができるように、人権教育の啓発を目的とした生涯学習人権講座研修会を毎年開催している。対象は、一般市民をはじめ、学校教職員、PTA会員、社会教育委員や人権教育推進委員会委員等である。

コロナ禍が継続した状況ではあるが、昨年度と同様に、六月以降、感染防止策を講じながら計四回の講座を開催し、のべ百二十三名の方に受講いただいた。今年度は、昨今、社会的にも関心が高まっている人権課題の一つである「性的少数者の人権」を新たな取り上げるとともに、SNS上での誹謗・中傷が社会的な問題として取り上げられている「インターネットによる人権侵害」を昨年度に引き続き講演テーマとした。

受講後のアンケートでは、「平日頃から眺め、生活している空間が、障がいがある方からの視点では、多くの問題や危険がある」と改めて知れたと共に、当該者の気持ちとあまり考えていなかった自身に気付いた（第一回研修会）「LGBTQについて改めて考える機会になりました。」「性的少数者は人の数だけ」という言葉にハッとさせられました。（第二回研修会）「子どもを

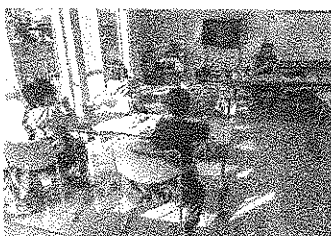
回	開催日	テーマ
1	6月29日(火)	障がいのある人の人権
2	10月14日(木)	性的少数者の人権
3	11月5日(金)	インターネットによる人権侵害
4	11月30日(火)	同和問題



「性的少数者の人権」講演の様子

もつ親として、とても考えさせられる講座でした。子どもと再度、ネットいじめや携帯の使い方を一緒に話し合いたいと思います。第三回研修会「人権とは人が平行的ではない差別が存在しているのだ」と思いました。差別をなくすために、一人一人が人権について考える機会や知識が必要であると思いました。（第四回研修会）「等々の感想が寄せられた。

今後、差別のない明るい社会づくりに向け、本研修会を創意工夫のうえ、計画的に実施していきたい。



「赤もの」絵付け体験の様子



# 「みんながみんなのために」

鴻巣市立吹上富士見保育所

【関わりの中から学ぶ】  
保育所では、基本的な生活習慣を身に付けながら、遊びを通して友だちとの関わりをもち、社会性を育て、リズム遊びや豊かな自然環境を生かした戸外での活動など、楽しみながら心身の成長発達を促せるよう工夫をしている。在籍している児童の中には、様々な家庭環境や特性のある子どもが含まれるが、これらを個性ととらえ、保育者が関わるうえで必要な支援ができるよう心がけている。支援が必要な子どもに対して加配保育士を配置するなど、保育所側からのサポートはもちろんであるが、一緒に生活を送ることで子どもたちの中にも当たり前の前のように助け合う関係が生まれてきており、子ども同士が関わり合う中で、お互いが多様性を認め合う気持ちが育ってきていると感じる。

【「コロナ禍の中で」】  
新型コロナウイルス感染症の影響により、保育現場の様相が大きく変わり、行動が制限される中、取り組み方を変えざるを得ない状況が増えた。体だけでなく、心の健やかな成長発達を保障するためにはどうすべきかを常に考え、保護者の協力を仰ぎ、「できる形での実施」にこだわり、可能な限り実施してきた。子どもたちがいつもと変わらない笑顔を見せ、喜々として取り組んでくれたことを何よりも嬉しく感じた。また、密を避ける消毒の徹底などの感染拡大を防止するための取組は、「みんなが病気になるために大切なこと」ということを子どもたちに伝えることで、「新しい生活様式」を無理なく受け入れてくれた。どんな状況でも保育所の役割には変わりなく、みんながみんなのために協力し合える社会をつくって、子どもたちに発信できる保育所でありたい。



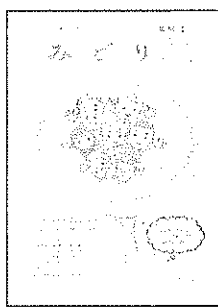
吹上富士見保育所の外観



# 伊奈町の人権教育事業

伊奈町教育委員会

伊奈町では、多様化する人権課題について正しく認識し、差別や偏見のない社会を目指すため、様々な人権教育事業に取り組んでいる。今回は、その中の三つの事業について紹介する。  
まず一つ目は、町民をはじめ、教職員や町役場職員、町人権教育推進協議会委員等を対象とした「学ぶ・気づく・広げる人権講座」である。日本固有の人権課題である同和問題や、社会情勢の中で話題となっているタイムリーな人権課題について、講師の講演により正しい知識の習得を促している。受講者は講演内容に刺激を受け、人権への関心を高めることができる。  
二つ目は、人権標語の募集である。毎年、町立小・中学校の児童生徒を対象に、人権標語の募集を行い、各学校から選出された優秀作品を掲載したポスターを作成している。ポスターは学校だけでなく、町内の公共施設や集会所、企業等に



人権教育広報紙「みどり」第52号

も配布することで、職場等でも人権について考えるきっかけをつくることできている。  
三つ目は、人権教育広報紙「みどり」の発行である。年度内に実施した様々な取組の成果や、事業に参加した方の感想等を掲載し、年度末に全戸配布しているものである。親しみのもてる紙面づくりを心がけることで、町の人権教育事業について幅広い年齢層の関心を高めることができる。  
今後も、差別や偏見のない明るい社会の実現に向けて、工夫を凝らした人権教育事業を実施していきたい。



# 埼玉県立上尾かしの木特別支援学校の人権教育の取組について

埼玉県立上尾かしの木特別支援学校

【概要・全般】  
本校は、令和三年五月現在、小学部百七十二名、中学部八十六名、高等部百二十二名、計三百八十名が通う特別支援学校である。「わかること」「できること」を広げ、ひとりだちする力を育むことを目標に、上尾の豊かな自然環境の中で、児童生徒が日々学びを深めている。  
各学部や年齢によつて人権教育の内容は様々である。共通して行っていることとして、地域の小・中学校、高等学校との交流会や運動会・文化祭を通じた地域の方々との交流があり、地域の中で人権教育を進めている。  
【小学部での取組】  
小学部では、自分が大切にされていることに気づくこと、「一人一人の友だちを大切に」し相手のよさを認め合えること、自分の気持ちを表現し要求や意思を相手に伝えられるようにすることを目指し、全教育活動の様々な場面を通して人権感覚を育んでいる。

中でも、小学部五年生の実践を紹介したい。ある学級では、大人や友だちとの距離感が分からず、好意から過度な密着をしてしまう、生活場面で下着や腹部などが露出してしまふなどの課題があった。そのため生活単元学習の授業の中で「かわり方」の学習を行った。友だちと話す距離（フリンガーチップ）

お互いの手を伸ばして指先が触れる程度の距離）、大人の約束（正しいコミュニケーションの取り方）などの学習を通して、適切なやり取りやかかわりから、日々、人権について学んでいる。

【教職員の関心】  
本校では、生活指導部が企画して人権研修を行っている。本年度は様々な児童生徒の人権について考えたいという要望もあり、LGBTQについての研修を行った。ジェンダーや人種、子どもの人権など様々な研修への要望があり、本校の教職員の人権教育への関心は高い。そのような要望に応えて、人権教育の推進に取り組んで行くことが今後の課題になっている。



小学部での授業の様子

## ◆ 人 権 作 文 ◆

## 球技大会を通して

鴻巣市立笠原小学校 六年 山本 桜

私は、球技大会を通して、心に残ったことが四つあります。

一つ目は、クラスの仲のことです。私たちは、五年生の三学期から、たくさん練習してきました。つらいときもたくさんあったけど、チームで作戦を立てたり、アドバイスをし合ったりしてきました。本番では、練習のとき以上にチームで話し合い、よりクラスの絆が深まったと思います。

二つ目は、他の学校の子たちとの関わりです。他の学校の子たちと交流することで、今までとはちがった緊張感で試合をすることができました。いつものようにプレイすることができないこともありました。本番の緊張感を知ることとは、とても大事なことで感じました。

三つ目は、感謝の気持ちです。先生たちは忙しいのに、私たちのために指導をしてくださいました。また、家の人や習い事でのコーチも、私たちのために休日でも教えてくださいました。私は応援してくださいましたすべての方々に感謝

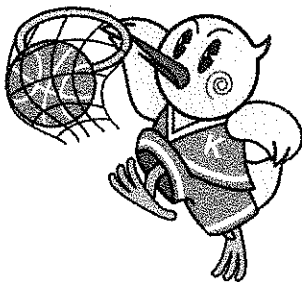
の気持ちを伝えたいです。

四つ目は、「勝ち」よりも大事なことです。他の学校の校長先生が、

「勝つことよりも大事なことは、たくさんの人に感謝したり、他の学校の子たちと交流したりすることです。」

とおっしゃっていました。私はこれから他の学校と勝負するときは、勝つことだけでなく、感謝の気持ちや、その勝負をする目的なども考えていきたいです。

球技大会を通して、たくさんの方に気づくことができました。これからは、自分たちだけでなく、協力してくださった方々への感謝の気持ちを忘れずに色々なことにがんばっていききたいと思っています。



北足立北部地区人権教育広報紙  
第三十九号をお届けします。  
発行にあたり、皆様のご協力に  
感謝申し上げます。